

67周年！貴重な古い資料が見つかりましたのでご紹介

01

病院のあゆみ

長津田厚生総合病院は、昭和30年6月に、現在と同じ場所に開業し、地域の皆様に支えていただきながら、今年（令和4年）で67周年を迎えました。

そもそも、法人母体となる一般社団法人日本厚生団は、昭和21年3月、終戦後の荒廃の跡、戦災に打ちひしがれた市民及び外地からの引揚者の厚生の一助となることを目的に活動を開始した組織体でした。その翌年には「戦災者、海外引揚者、失業者、その他の貧窮者の生活を擁護し、その福利を増進する目的」から、昭和22年に、横浜市中区日ノ出町に小さな診療所を開設いたしました。

また、初代院長の戸田修院長は、旧満州鉄道に防疫部長として勤務し、旧中国東北部のペスト、コレラの撲滅に尽力しましたが、終戦により帰国し、昭和23年には戦災により孤児となった浮浪児を救済する為の施設「ボーイズ・ホーム」をこの診療所の隣接した場所に開設しました。

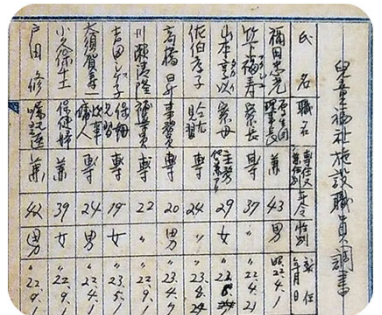


ボーイズホーム外観（昭和25年頃、奥村泰宏氏撮影）

ボーイズホームの園児たちによって月に一度刊行されていた冊子『ひまわり』。ホームで保護されるに至る経緯を園児たちが記した作文も多く、孤児たちの心境を知る貴重な資料です。
(昭和20～30年代)



ボーイズホームの事務室には日本厚生団の診療所があり、南満州鉄道株式会社の保険部長を務めた戸田修（初代院長）が診療に当たっていました。この診療所が独立して、現在の長津田厚生総合病院となりました。



戦後の日ノ出町周辺は、戦火による焼け野原のままであり、ボーイズ・ホームに医師がいることを知り、遠くからでも病人が訪ねて来るようになったていました。この診療所は、昭和24年に25床の病院に転換し、「日ノ出町厚生病院」として稼働を始めました。この病院が今日の「長津田厚生総合病院」の前身となります。

その後、日本の経済は日々成長を重ねてまいりましたが、その頃、横浜北部地域では都市開発が進められていたものの、無医村に近い状態でも新しい医療施設が急務な状態でもあり、長津田地域からの熱い要望もあり、昭和30年6月に「長津田厚生病院」を開業しました。

ベッド数70床でスタートしましたが、東急田園都市線や国道246号線の開通、更には東名高速道路等の交通網も整備されたことにより、横浜北部地域の人口も急激に増加しました。その間、病院も地域の変遷とともに呼応し、規模や内容の充実を図り、昭和43年には「長津田厚生総合病院」として新たにスタートしました。

その後、本館、検査センターも建設され、更に昭和54年には新館を増築しベッド数も増加しました。また、平成8年には健診センター、人工透析センターが増設され、現在の体制へと移行しています。令和2年末から世界中に蔓延したコロナ禍の中、当院も発熱外来の設置、コロナ患者様の受け入れ、集団コロナワクチン接種等、積極的に取り組んでいます。今後も、地域の皆様に溶け込み、寄り添って長津田と共に歴史を重ねて行けたらと思います。

人事・総務課

02

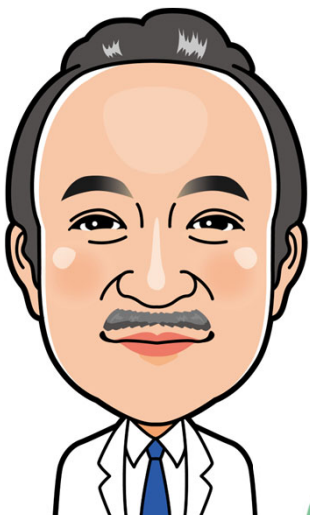
病院長より ご挨拶

こんにちは！病院長の石田秀夫でございます。4代目病院長を拝命して4年目になりますが、当院は歴史が古く、設立70年近く前に遡ります。

昭和30年ころと言えば長津田は、緑区分区前で港北区でした。当時は現在ほど人口は多くなく、交通網も未発達で国道246号線は未舗装のジャリ道でした。鉄道は東急大井町線（現田園都市線）が溝の口が終点で、国鉄横浜線のみで運行は単線運転で1時間わずかに数本のみでした。

現在は、交通網が素晴らしく発達し、都会へのアクセスも良好です。それにもまして緑区は文字通り緑豊かな自然の中、地域のつながりがある暖かな土地柄です。このような環境の中日々働ける私達は幸せです。

高齢化が進む中、未だ新型コロナウイルスは終息のめども立たず、猛威を振るい続けておりますが、私達病院職員一同は今後も安全、安心な医療を提供し続けることにより、皆様に信頼される病院であり続ける事を目指して日々、努力して参ります。今後ともよろしくご挨拶致します。



03 副院長よりご挨拶

当院は、健診センターでの健康診断で病気の早期発見に努めるとともに、多くの患者様が抱える生活習慣病や、日常生活で負った傷・骨折、がんや心筋梗塞など生命の危機に直面する疾患にも幅広く対応できる病院です。また、長津田駅から近く地域の皆様が気軽に足を運べる利便性を兼ね備えながらも、通院が困難となった患者様には病院との連携を密にした訪問診療も提供できるよう力をいれています。近年は、新型コロナウイルス感染症に対する予防・検査・治療にも対応できるように診療の幅を広げてきました。

これからも、地域の皆様が少しでも安心して生活できるよう、安心して病気の治療にあたるよう、刻々と変化していく社会に対応していける病院でありたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。（外科部長 森 隆太郎）



看護部より皆様へ（新看護部長、4月入職者）

04

新看護部長より

令和4年4月より看護部長となりました廣島のお子と申します。高齢化が進むなか当院では、急性期の治療だけでなく、ご自宅で暮らしながら診療が受けられる訪問診療を行っております。患者様やご家族のご要望を伺い、退院後や日々の生活をより安心して暮らして頂けるよう取り組んで参りたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



4月入職看護師より \今年度の新人は12名! /

既卒として入職し、業務に慣れていく中で患者様と関わる時間を多く持つことができ、改めて関わる楽しさを実感しています。業務優先ではなく、患者様のことを考えた看護をこれからも行っていきます。

新館2階病棟 M.K



05 新任医師よりメッセージ

外科

なかしま まさゆき
中畷 雅之 医師



《 医師の仕事を選んだきっかけ 》

自分が頑張れば頑張るほど、人に喜んでもらえる仕事だと思ったからです。また、家庭に医療従事者がいて、医療の仕事を手近に感じていたこともきっかけの一つです。

《 どんな時にやりがいを感じますか 》

一番は、病気で困っている患者さんが、手術などをきっかけに良くなっていく姿をみる時です。また、他の病院でうまく治療できなかったり、断られた患者さんの治療が成功して喜ばれる姿をみる時など、大きなやりがいを感じます。

《 地域の皆様へメッセージ 》

これまで、色々な病院で多くの治療経験を積んできました。その経験をこの地域の方々に提供できるよう努力していきます。また、腹腔鏡手術を中心に、最新の治療を提供できるように研鑽を積んでいきます。日常のささいな怪我や不調など、癌などの大きな病気まで、安心して受診いただけるような診療科・病院を目指します。どうぞよろしくお願い致します。

循環器内科

せきい りゅうすけ
関井 隆介 医師



《 医師の仕事を選んだきっかけ 》

病気になっている人を治療し、助けることができる人のためになる仕事と思ったので医師を目指しました

《 どんな時にやりがいを感じますか 》

困っている患者様の診断をつけ、治療により問題が解決したとき

《 地域の皆様へメッセージ 》

さまざまな病気でお困りのことと思います。第一にお身体を大事にして、治療により改善できる問題があれば協力させていただきます。

整形外科

すずき はるか
鈴木 宙 医師



《 医師の仕事を選んだきっかけ 》

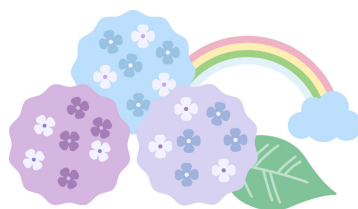
学生時代、野球をやっていてケガ、そして何度か整形外科に雇ったことがあり、ケガを治す仕事ができたらいいなと思いました。

《 どんな時にやりがいを感じますか 》

今は人工関節を主に専門としているので、術後に痛みがとれ、きれいな歩容で歩かれている姿をみるときにやりがいを感じています。

《 地域の皆様へメッセージ 》

当院では筋肉を切らず最小侵襲（MIS：Minimally Invasive Surgery）での人工関節手術を行っています。術後の痛みが少なく、回復もスムーズです。股・膝関節の痛みで悩まれている方は、一度ご受診ご検討いただけたらと思います。



リハビリテーション科より 06

私達は、「地域の絆・つながりを大切にした裁量のリハビリテーションの提供」に努め、今後も患者様一人ひとりの状態や生活のニーズに対応できるようリハビリテーション科を目指し、スタッフ一同、日々努力していきます。そのためにも、入院・外来の患者様は勿論の事、在宅訪問のリハビリテーションを充実させていくことで、生活に不安を持つことなく、皆様が住み慣れた街・住み慣れたご自宅で、笑顔のあるその人らしい生活を、今まで以上に安心して過ごせるようにリハビリの面からサポートしていきたいと考え、令和4年4月から念願の訪問リハビリを開始いたしました。

外来、入院、在宅ケアまで一貫して患者様に寄り添うリハビリテーションを提供することができるようにするために、訪問診療を行う医師や看護師、担当マネージャー、医療相談員や介護士など、沢山の職種の方と密に連絡を取り、患者様やご家族様が少しでも楽に生活できるように工夫しながら行っていきたく思います。（金子 真規）

一般社団法人 日本厚生団
長津田厚生総合病院

〒226-0027
神奈川県横浜市緑区長津田4-23-1

代表 045-981-1201

健診センター 045-981-1205

長津田厚生総合病院



<https://www.nagatsuta-ks-hp.or.jp/>